

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通して 教科のねらいに迫る授業づくり」

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第5学年 国語科学習指導案

単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

「たずねびと」

■単元の目標

- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている（思C（1）エ）
- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（思C（1）カ）
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（知（1）オ）
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている（思C（1）オ）

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

- ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。

精査・解釈

- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。

考えの形成

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる。

共有

- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。

■児童の実態

本学級の児童は、これまで「ごんぎつね」などの学習を通じ、文学的文章を読み、話し合いなどを通して登場人物の気持ちの変化について叙述から読み取る力を高めてきた。また、「なまえつけてよ」の学習では、登場人物同士の関係性の移り変わりを叙述から読み取り、それに対して自分の考えを感想文としてまとめて表現するという活動を行った。しかし自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして自分の考えを広げることに課題がある児童が多い。そのため、本単元で物語の全体像を捉えた上で自分の考えをまとめて友達に伝えるという言語活動に取り組み、自分の考えを表現したり広げたりする力を身に付けられるようにしたい。

■言語活動

「たずねびと」は、主人公である「綾」の視点から描かれている。現代に生きる11歳の綾の感性や考え方が分かりやすく描かれ、児童にとって読みやすい教材である。描写を基に綾の心情を捉えたり、単元計画に基づいた読みの視点をについて読み深めたりする際、全員が自分の考えをもち、表現できるようにするために、言語活動として自分の考える主題とその根拠をリーフレットにまとめて紹介し合う言語活動を設定する。自分の考えを説明するとき、構成を工夫できるように、リーフレット形式を採用した。話し合いの場面では、児童の意見を教師が価値付けたり、問い返しをしたりしながら分類・整理していき、児童が物語を読み深め、考えを広げられるようにしたい。また、話し合うことに価値を見出し、今後も目的意識をもってすすんで自分の考えを伝え合おうとする力を身に付けさせたい。

■単元計画（全9時間）

第1次 学習課題の設定

- ① 「たずねびと」を読み、初発の感想を書く。
 - ・本文を読み、心に残ったところや疑問に思ったことをまとめる。
- ② 感想を交流し学習計画を立てる。
 - ・心に残ったところや疑問に思ったことについて、自分の考えを伝え合うために学習計画を立てる。
 - 《なぜ綾はアヤを探しに行ったのか》《原爆の恐ろしさ》
 - 《おばあさんの気持ちとそれに対する自分の気持ち》《綾の気持ちの変化》《綾の思いは作者の思いなのか》

取組①

ペアやグループで読み深めたい観点や疑問について短冊カードに書かせる。疑問や読み深めたい観点を分析・整理し、それに基づいて単元計画を設定する。児童が主体的に目的意識をもって読み深めることができるようにする。

第2次 全体像の把握

- ③ 物語の設定と全体像をつかみ、内容の大体を捉える。
 - ・登場人物 ・中心人物 ・時代 ・場所 ・場面 ・原爆について
- ④ 学習計画の、読み深めたい視点に沿って読み、自分の考えを伝え合う。
 - ・《なぜ綾はアヤを探しに行ったのか》 叙述を元に自分の考えをまとめる。
 - ・友達と考えを伝え合い、全体で交流する。
- ⑤ 《綾の気持ちの変化》を叙述から想像し、自分の考えを伝え合う。
 - ・広島到着～供養塔で目の当たりにした現実やおばあさんとの関わりから変化する綾の心情を読み取る。
- ⑥ 《おばあさん気持ちとそれに対する自分の気持ち》について、自分の考えを伝え合う。
 - ・被害者の親族を待ち続けるおばあさんの心情を想像する。

取組②

目的意識をもって対話させたり、対話することに価値を見出させたりする。グループやペアでの話し合いの際に「なぜ～」「どうして～」など教師が問い返しをし、児童が協働的に読みを深め、自分の考えを広げられるようにする。あるトピックに関して児童がもっている考えを、同種と同種や同種と異種など、適宜グループ編成に生かすことで、児童が読みを深め、自分の考えを広げられるようにする。

第3次 言語活動・共有

- ⑦ 「綾の思いは作者の思いなのか」について、物語の全体像から想像し、自分の考えをまとめる。
- ⑧ 学習を振り返り、本単元で身に付いた力について振り返る。

取組③

対話で広げた自分の考えや、叙述から読み深めたことを根拠に「たずねびと」の主題を考えさせる。自分が考えた主題について友達とペアやグループで話し合い、自分の考えを広げられるようにする。

■学習指導過程（7/8 時間）

1 前時までを振り返る。

- 「たずねびと」を読んで何について考え読み取りを深めてきたかを振り返る。
- ・綾が広島まで行った理由。
- ・物語全体を通した綾の気持ちの変化。
- ・供養塔で会ったおばあさんの気持ち。
- 本時で扱うテーマを確認する。
- ・綾の思いは作者の思いなのか。

・前時までの学習を振り返り、たずねびとの全体像をとらえさせ、主題を考えることにつなげる。

2 「たずねびと」の主題について考える。

- 綾の思いは作者の思いなのか話し合う。
 - ・綾を通して伝えたいことがあると思う。
 - ・作者も広島出身だから、綾に自分を重ねていると思う。
 - ・物語文にも「作者が伝えたいこと」が入っているから、作者の思いもあると思う。
- 「たずねびと」における作者の思い（主題）について、自分の考えをノートにまとめる。
 - ・平和な世界にしよう。
 - ・戦争を二度と繰り返さないようにしよう。
 - ・原爆の恐ろしさを知ってほしい。
- 友達と作者の思いについて話し合い、自分の考えを再構築する。

・主題を考えるときは叙述やこれまで深めてきた読み取り、登場人物の気持ちの変化などから根拠を見付けるようにさせる。

・主題について話し合わせ、児童が自分の考えを広げ、再構築できるようにする。

◇物語の全体像などから主題について考え、話し合いを通して自分の考えを再構築している。(ノート、発言)

3 友達との話し合いについて発表する。

- 自分の考えが広がったことや、新たな気づきについて全体共有する。
- 4 次時への見通しをもつ。
- 本時までに考えたことをもとに、たずねびとのまとめとして何をするか考える。

・交流を通して自分の考えが広がったことや新たに気付いたことについて共有することで、話し合いについて価値付ける。

・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童の疑問や感想から読み深めたい観点や問題を共有し、学習計画を立てる。
- ② 対話の目的を明確にもって自分の考えを伝え合っている。
- ③ 考えを伝え合うことを経て、多様な解釈や根拠に触れ、自分の考えを広げる。

本時における具体的な児童の姿

- ① 問題を解決するために、すすんで根拠を叙述から読み取ったり、自分の考えを友達と共有しようとしていたりしている。
- ② 話し合う相手を目的に合わせて変えている。
- ③ 綾の心情や情景描写、おばあさんの言動、叙述などを基に読み深め、友達と考えを伝え合ってたずねびとの主題をつかむ。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《単元の学習計画を立てるときの工夫》

- ① 初発の感想から、児童の疑問や読み深めたい観点を分析・整理し、それに基づいて児童と話し合いながら単元計画を設定する。児童が主体的に目的意識をもって読み深めることができるようにする。
 - ・初発の感想について、どんな考えや疑問が出ているか共有するために、小グループやペアで話し合う。その際、読み深めたい観点や疑問について短冊カードに書かせる。全体での話合いで、短冊カードに基づいて考えや意見を整理・分類しながら、学級の読みのめあてとなる読み深める観点や疑問について学習計画を立てられるようにする。

《対話をさせるときの工夫》

- ② 目的意識をもって対話させたり、対話することに価値を見出させたりする。
 - ・話合いに価値や意味を見出し、対話をする必然性を児童にもたせられるようにする。そのため、児童に話し合いたい相手を目的に合わせて考えさせ、グルーピングの工夫を行う。あるトピックに関して児童の考えを、同質と同質や同質と異質など、適宜グループ編成に生かすことで、児童が読みを深め、自分の考えを広げられるようにする。

《物語の主題に迫るための工夫》

- ③ 対話で広げた自分の考えや、叙述から読み深めたことを根拠に「たずねびと」の主題を考えさせる。
 - ・児童はこれまで「一つの花」「ちいちゃんのかげおくり」などの、戦争を題材にした物語を読んできた。平和な現代を生きる綾と、戦時をきたアヤが対比するように描かれている「たずねびと」を読み、作者が読者に伝えたかった主題について考えさせたい。主題を考える際には、読み深めてきた観点や疑問、対話を通して広げた自分の考えや叙述などを根拠にして考えられるようにする。また、自分が考えた主題について友達とペアやグループで話し合い、自分の考えを広げられるようにする。